

## 組織目標評価報告書(平成30年度)

6-1

部局名: 医学部医学科

部局長名: 大塚 愛二

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	
<b>①-1 目標</b>	<b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
1. 入試の実施状況 入試倍率3.0~4.0倍 2. 教育の実施体制 ①新任教員FD、夏のFDを実施する。 ②恒常的FD活動として、教育企画委員会を開催し、実際の教育現場の課題を検討する。 ③医学部に医学教育企画推進室を設置し教育に関する企画立案とIR/IE活動を実質化する。 3. 教育方法・内容 ①海外大学等との学生交流を拡充しグローバル化を推進する。 4. 教育の成果 ①学生の履修、単位取得状況について、AA制を活用し指導を図る。 ②医師国家試験合格者を全国平均以上に維持する。	1. 入試の実施状況 入試倍率は、一般入試(前期日程)=3.3倍、推薦(地域枠)=7.4倍、国際バカロレア入試=2.0倍、学士編入学=8.0倍で、国際バカロレア入試以外は3倍を超えており、一般入試は3.0~4.0倍になって、目標を達成している。 2. 教育の実施体制 ①新任教員FDは2018年5月22日に実施した。「医学部における医学教育の概要等」夏のFDは2018年7月20日に実施した。テーマは「講義を面白くしよう！」 ②基礎・社会医学系教育企画委員会及び教育医長・教育企画委員会を毎月開催し、教育現場の課題について討論した。 ③医学教育企画推進室を設置した。この1年間で7回の会議を行い、とくに「学修アウトカムに影響する因子の調査」のための準備を行った。とくに本調査については倫理委員会を通すことを前提としており、そのための今後、医学部IR室として新年度からスタートし、教学IR/IEに特化した組織とすることとした。 3. 教育方法・内容 ①海外大学との学生交流は、派遣36人、受け入れ42人であった。おおむね順調である。 4. 教育の成果 ①学生の履修、単位取得状況について、AA制を活用し、個別面談を推進した。 ②医師国家試験合格者は、全体で90.7%(全国平均89.0%)、新卒で94.3%(全国平均92.4%)であった。いずれも、全国平均を上回っており、目標は達成した。
<b>①-2 年度計画との関連</b>	
アクティブラーニングの拡充に努めていきたい。	Moodleの利活用を推進した。Moodleに基礎医学実験および診療手技の自習教材ビデオを作って学生が事前学習できるようにした。
<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
1. 入試の実施状況 入試倍率 2. 教育の実施体制 ①新任教員FDと夏のFDの出席者数 ②教育企画委員会の開催数と出席者数 ③医学教育企画推進室会議の開催数、企画立案件数、IR/IE活動件数(調査中を含む) 3. 教育方法・内容 ①外国人留学生の受入・日本人学生の海外派遣数 4. 教育の成果 ①留年・休学・退学者数の減少 ②医師国家試験合格率	1. 入試の実施状況(入試倍率:一般入試(前期日程)=3.3倍、推薦(地域枠)=7.4倍、国際バカロレア入試=2.0倍、学士編入学=8.0倍) 2. 教育の実施体制(①新任教員FD:2018年5月22日「医学部における医学教育の概要等」、夏のFD:2018年7月20日「講義を面白くしよう!」、②基礎・社会医学系教育企画委員会、教育医長・教育企画委員会(毎月開催)、③医学教育企画推進室設置(7回開催)、医学部IR室(新年度設置予定)) 3. 教育方法・内容(①海外大学との学生交流:派遣36人、受入42人) 4. 教育の成果(①AA制による個別面談を実施、②医師国家試験合格率:全体90.7%(全国平均89.0%)、新卒94.3%(全国平均92.4%))
<b>②研究領域</b>	
<b>②-1 目標</b>	<b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
医歯薬学総合研究科に統合	
<b>②-2 年度計画との関連</b>	<b>②-2 大学全体への貢献</b>
医歯薬学総合研究科に統合	
<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
医歯薬学総合研究科に統合	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	
<b>③-1 目標</b>	<b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
・地域での健康講座などを地域の取り組みに合わせて実施する。 ・高大連携事業を積極的に推進する。 ・国際交流プログラムを拡充する。	・健康フェスタin Okayamaを山陽新聞社とともに開催し、受講者数3669名、動員数2165名であった。 ・高校からの大学訪問の受け入れおよび出前講義を行った。 ・国際交流について、中国からの訪問団などを積極的に受け入れた(7月、11月)。東欧との交流協定を積極的に推進した。
<b>③-2 年度計画との関連</b>	<b>③-2 大学全体への貢献</b>
公開講座の開催 高大連携事業の実施 学生及び研究者の交流	健康フェスタin Okayamaでは、本学の教授陣らによる2つの特別講演、18の公開講座、健康・医療情報に関する展示・体験ブースが用意され、2日間で延べ約4,000人が健康についての知識を深めた。
<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
海外大学との協定、国際交流の実施状況	海外大学との協定に基づく交流:派遣11件、受入27件
<b>④管理運営領域</b>	
<b>④-1 目標</b>	<b>④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
・コンプライアンス研修の徹底について、引き続き出席率の向上に努める。 ・会議の時間の短縮に努める。	コンプライアンス研修について、事前周知を繰り返し実施した。また、eラーニングのものについては、未実施の教職員に個別かつ直属上司に連絡し、実施を促した。各会議の時間短縮に努め、医学系医学科会議は、前年度に比べ、累計110分の短縮となった。
<b>④-2 年度計画との関連</b>	<b>④-2 大学全体への貢献</b>
ヒト・カネ・トキのうちトキを有効に使うことにより効率化を図る。	会議の短縮は、トキを有効に使うことにつながっている。必要なことは十分議論して、効率化を図る工夫をした。
<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
コンプライアンス研修出席率	情報セキュリティe-Learning受講率81%、研究倫理教育受講率90%、公的研究費等の不正防止に関するコンプライアンス研修受講率62%
<b>【総括記述欄】</b>	
非常に良好に推移している。医学部構成員が非常に協力的に様々な取組に参加してくれて、本年度の活動が推進できたと考えられる。	